

運営指導協議員の先生方より

千葉県立佐倉高等学校 S G H 運営指導協議会に参加して

一橋大学名誉教授 片岡 寛

佐倉高等学校が平成28年度から文部科学省のSGH認定校として意欲的にスタートした本「グローバルラーニング」は令和2年度をもって5年間の終了年度となった。この間筆者は運営指導協議会の協議員としてこの新たな教育の取り組みを見守ってきた。

この5年間の教育は、高校教育の中で将来のグローバル・リーダーとしての素養と能力を備えるべく、新たなカリキュラムのもと、しっかりと3年間の学習を積んで、大学への接続も視野に、あらゆる課題に対してグローバルな広い視野と確実な分析能力を備え、世界に発信できる語学能力を鍛える教育としてなされてきた。

具体的には課題研究「GL探究」を基本とした「GLアクティブ」「グローバルラーニング」による日常学習でのグローバルな見方や考え方の徹底。国内だけでなく、海外5か国への毎年のグローバル研修、大学や企業・国際機関との連携による幅広い研修、地域との連携や国際化に必須となる英語によるプレゼンテーション能力の向上努力、等々、この5年間の教育成果は実際の授業や研究発表会を見るにつけ毎年の向上の成果が見て取れるこの5年間であったと評価できる。

特に1年生の年度末の発表に年々質の向上が確認出来たことは、指導する先生方のSGHの指導システムが毎年格段に進化向上してきた結果であろう。勿論2・3年生の成果はそれ以上であった。

残念ながら最終年の令和2年度は感染症の蔓延で、仕上げの計画が十分実現できなかったことが悔やまれてならない。

5年間で蓄積された本校のSGH教育システムが更に続行され広く全国に広まっていくことを希求してやまない。

日本ルツボ株式会社 社友 岡田 民雄

私は田辺新一校長先生時代の平成23(2011)年9月30日に、全校生徒987人を前に、OBとして講演をしたことがあります。そのタイトルは「佐倉高校生に期待すること 国際舞台での活躍を」でありました。

当時、足繁くアメリカ、ドイツ、中国に出張しており、英語の大切さを痛感していた私は、講演の席で生徒の皆さんに語学、特に英語をマスターして欲しいと強調してお話し致しました。

あれから約10年たった本日、「話題研究発表会ZOOM録画」を拝見して、私の夢が叶った思いで大変頼もしく感じたことは、研究発表、質疑応答を流暢な英語でしていることでした。

後輩の生徒の皆さんが、将来英語を武器にして世界の檜舞台で活躍される事を楽しみにしています。

私から一つ学校にお願いがあります。現在オランダ、イギリス、ドイツ、オーストラリア、シンガポール等には交流できるパートナー校がありますが、アメリカにはまだありません。世界で最も影響力の大きい国アメリカにも、是非交流できるパートナー校を作って頂きたいと願って居ります。宜しくお願い致します。

佐倉高校のSGHの5年間を振り返り、運営指導協議委員を務めた私もとても感慨深く感じています。報告書にはこの5年間、佐倉高校の教員と生徒が蓄積した経験が、今後に向けて引き継ごうとしている情報や想いが詰まっていました。

特に素晴らしいと感じたのは、生徒の主体性を重視しようとする教員の姿勢です。5年間の試行錯誤を通じて、「共に学ぶ」という姿勢が形だけのものではなく、実態として浸透している様子がわかりました。教員は指導者ではなく、コーディネーターやファシリテーターとして生徒に伴走する。自ら学び、自ら切り開く力をつけるということは、人生において最も重要なことであり、高校の段階で基礎ができていれば、大学で効果的に、自らにとって意味のある学びを深めることができます。単に知識を詰め込むだけではなく、自らの問いに応じて情報やデータを集め、深く、批判的に思考し、多角的に分析を進めた上で結論を導き出すのです。理系でも文系でも、研究で成果を上げるためには探究する力、批判的に思考する力が鍵になります。将来、学術研究に携わらなくても、こうした力は実社会において必ず役に立つはずです。

アンケート調査は満足を得ていない生徒の存在も示していましたが、彼ら・彼女らが探究学習の意味を見出すのはこれからです。佐倉高校が取り組まれたことは、大きな財産となって引き継がれていくと思います。

全国的にも稀なスーパーグローバルハイスクール（以下SGH）とスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）のダブル研究指定、さらにSSHにおいては、従来からの基礎枠と全国初の大学接続枠（千葉大学）によるSSHコンソーシアム形成等、普通科、理数科とも多用ながらもアカデミックな毎日の連続で生徒・教職員の皆様方のご苦労は大変なものであったと思います。さらに、SGH5年指定の集大成となる、最後の年が新型コロナウイルス感染拡大の影響から海外グローバル研修等、中止・変更せざるをえなかった計画も多かったと思います。

しかし、このピンチをチャンスに変えるべく多くの生徒にとって、これまでの成果がやがて血となり肉となり、本研究における期待する生徒の将来像としての「グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や様々な国際舞台で活躍できる人材となり、人類の幸福に寄与するようなグローバル・リーダー」と言った、立派な人材育成の証となることを確信しております。

なお、SGHにおいては一過性のものとするのではなく、指定期間終了後のさらなる教育効果の継続に向けて、各関係機関や同窓会組織等々の支援をお願いしたいと思います。佐倉高校ならびに生徒皆さんのますますのご活躍を祈念いたします。

佐倉高校で行なわれた5年間のSGHは、大きな成果が上がったと考えています。

「探究活動」は一般的に、①課題を自ら見つけ、②調査・分析を行ない、③課題解決等の仮説を立て考察を行ない、④中間発表などでアドバイスを受け、⑤さらに調査・分析を進め、⑥プレゼンテーションや報告書等にまとめていくというプロセスをとるわけですが、佐倉高校のSGHでは、それらの手順が丁寧に実施され、折に触れ、公開授業等でその成果を拝見させていただきました。また課題発見のために、佐倉という地域の探究から始め、千葉県、日本、世界へと課題発見のスケールを大きくしていったことは、生徒達に学びの過程を身に付けさせることになったと思います。

さらにオーストラリアやオランダなどの派遣先で、探究活動の成果を発表するだけでなく質疑も行ったことは、とにかく「日本人はプレゼンはうまいが、質疑が出来ない」と言われていることへ、高校生がチャレンジしたと高く評価したいと思います。2021年2月5日に行なわれた課題研究発表会でも、英語での質問に対し堂々と答えていたことはその成果だと感じました。

SGHなど大きな活動をどのように定着させていくか、多くの学校が悩んでいます。2021年度の活動では、1・2年生の縦割り活動も取り入れ、先輩から後輩へ知の伝授などが行なわれていたことは、これからの活動を示唆していると思います。

SGHの指定で得たものを、さらに発展し、後輩へバトンを渡していくことを期待しています。